

令和元年度大岡小学校 3-1 クラスの学びを発信します！

こちら3年1組カイコ研究所

理科の自然観察時間に、ある子どもが校庭のプランターに植えてあったキャベツの葉に卵が産みつけられているのを見付けました。教室に持ち帰り教科書を開くと、そっくりな写真が見つかりました。モンシロチョウの卵です。理科では生き物を育てるのだと気付いた子どもたちは、早速、去年までの経験を活かし、えさや虫かごを準備して世話を始めました。それと同時に、学校に配布されたチラシから横浜シルク博物館がカイコの卵を配布していることを知りました。カイコを同時に育てることでモンシロチョウのことがもっと分かるかもしれないと考え、カイコの飼育を始めることにしました。

カイコが教室に来た頃はまだ1センチメートルにも届かず、世話をするのに、たいへんな注意が必要でした。シルク博物館の人の話では、小さいうちは、体が弱く、直接触ることもできないくらいだそうです。餌の桑の葉を交換するにも、1頭ずつピンセットで掴み、慎重に運ばなければなりません。ちょっとした風で飛ばされないように、マスクを付けたり、窓を閉めたりして世話をしました。



カイコが少しずつ大きくなってくると、餌の桑の葉をものすごい勢いで食べることが分かってきました。学校に生えている桑の葉だけでは足りないと感じた子ども達は、町探検へ出かける時に、桑の葉が町のどこに生えているのか、桑の葉マップを作ることにしました。川沿いを歩いたり、公園を回ったりすると、町のあちらこちらに桑の葉が生えていることが分かりました。

「公園の葉は、とってもいいのかな。」「公園はみんなのものだけど、生えている植物を勝手にとってはいけないのではないかな。」いつもは自由に使っている公園なのに、使い方によっては知らないことがあることに気付きました。区役所に連絡をしてみると、「1、2月までならよいですよ。」という返事が来ました。

そうしているうちに、カイコはどんどん大きくなります。葉をあげてもあっという間に食べてしまいます。大きく育ったカイコは手の上に乗せることができます。さわると冷たくてすべすべします。たくさんの観察カードを描き、とうとうまゆになりました。「繭を使って何か作りたいな。」何が作れるのか夢が広がります。夏休み中に研究し、休み明けはものづくり開始です。

